

ディスクロージャー優良企業受賞に寄せて

三菱商事株式会社 代表取締役 常務執行役員 コーポレート担当役員 (CFO) 内 野 州 馬

このたびのディスクロージャー優良企業受賞に際しまして、厚くお礼申し上げます。ひとえに関係者の皆さまのご支援とご理解によるものと、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

このたびの受賞は、弊社としては7年ぶりの受賞となりましたが、積極的な情報開示を進めるべく、社内一丸となって取り組んできたことをご評価頂いたものと考えております。総合商社は、かつては「商社不要論」が唱えられるなど、何度も存続の危機に直面してきました。弊社もそうした厳しい環境に晒されながら、それを乗り越えるべく業態変化を遂げてきたことが結実し、いわゆるトレーディング事業を中心としていた30年前とは異なる会社に進化し、それに伴い、財務面やリスクプロファイルといった側面でも大きく変化しております。一方で、このような変化、そしてこれから先弊社が目指そうとしている姿が、十分に市場に理解されていないという課題が浮かび上がってまいりました。この課題の解決に向け、アナリストの皆さまからも貴重なご意見を頂戴しながら、社内で議論を重ねた結果、経営陣を始め、IR活動に対する社内の意識がより高まり、積極的なIR姿勢が着実に浸透してきたことを実感しております。

具体的な取組みとしては、社長をはじめとした経営陣によるアナリストの皆さまとのスモールミーティングの開催や、従来資源事業を中心に開催していた事業説明会を、全営業グループに拡大して実施した他、決算開示資料の拡充にも注力しました。開示資料に関しましては、多様な事業を展開する弊社の業績詳細が分かりにくく、分析が難しいといった声を受け、その改善に向けて、開示

検討項目一覧を作成し、優先順位付けを行いながら、引き続き改善を続けております。

また、弊社は1985年にアニュアルリポートを創刊致しましたが、2014年度からはこれを統合報告書に移行し、内容の充実化を図りました。80年代は債券投資家を主な対象としていたアニュアルリポートでしたが、現在は弊社が対面する全てのステークホルダーに対して、長期的な企業価値創造プロセスをお示しするツールとして重要な役割を担っています。15年度版では更に、弊社の強みであるコーポレートガバナンスの仕組み、リスク管理・投資決定プロセスについての説明などを充実させております。

今回のディスクロージャー優良企業受賞では、こうした活動を高く評価頂いております一方で、依然として事業内容が分かりにくいといったご意見や、ROE目標の達成への道筋、大型投資案件の説明などを求める声も頂戴しておりますので、今後とも積極的に対応してまいります。アナリストの方々をはじめ、関係者の皆さまとの対話を通じたエンゲージメントは、今後わが社のみならず、全ての企業において必須となると確信しております。

弊社では、今中期経営計画の最終年度として、これまでを振り返りながら、中長期的な視野を持って、次期中期経営計画に向けて種々検討を致しております。弊社を取り巻く外部環境は不透明な状況が続いておりますが、今後も積極的な情報開示を通じて、市場の皆さまの理解を深めていただくべく進化させる所存です。どうぞご期待いただければ幸いです。